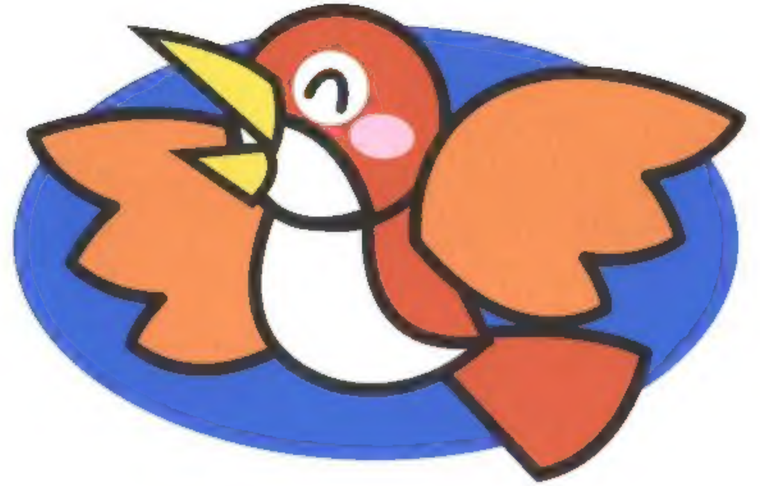
おはなしシリーズ

10

したきりすずめ





あるひ　おじいさんが　たけやぶで　けがをした
すずめを　みつけ　いえに　つれてかえりました。
おじいさんが　きちんと　きずの　てあてをしたので
すずめは　すぐに　げんきになりました。
おじいさんは　すずめに　ちょんという　なまえをつけ
たいせつに　そだてることにしました。



あるひ　すずめが　せんたくのりを　たべたので
おばあさんは　おこって　すずめの　したを　はさみで
ぱちんと　きってしまいました。
すずめは　なきながら　たけやぶに　とんでいきました。



「はさみで　したを　きるなんて　かわいそうに。」
おじいさんは　すずめを　さがしにいきました。
「ちょんや　ちょんや　どこへ　いった。」
「まあ　じいさま　よく　きてくれました。」
すずめは　ごちそうを　だして　おどりを　おどりました。

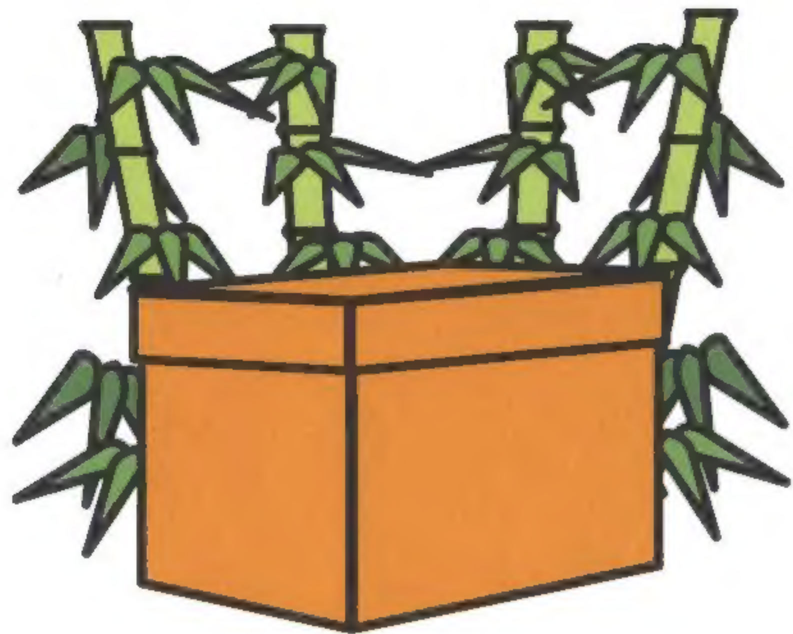
「じいさま　おみやげに　つづらを　あげます。
おおきいのが　いいですか。 ちいさいのが　いいですか。」
「おおきいと　もってかえるのが　たいへんだから
ちいさいのを　もらおう。」



「じいさま　いえに　かえってから　あけてくださいね。」
「なかには　なにが　はいっているやら。」
いえに　もどった　おじいさんは
つづらを　あけて　おどろきました。
こばんや　たからが　たくさん　はいっていたのです。
それを　みた　おばあさんが　いいました。



「どうして　おおきい　つづらに　しなかったんだい。」
おばあさんは　すずめの　いえに　いきました。
「わたしは　さっさと　かえるよ。
はやく　おみやげに　おおきい　つづらを　おくれ。」
「ばあさま　いえに　かえってから　あけてくださいね。」



「どんな　たからが　はいっているやら。」
おばあさんは　いえに　つくまで　まてずに
たけやぶの　なかで　つづらを　あけてしまいました。
ところが　でてきたのは　おおきな　へびや　けむし。
おばあさんは　びっくりして　うごけなくなりました。